

標十五句

松岡隆子選

ふたつめの橋の短き梅探る
預かりてより風船の置きどころ
凡庸な町大いなる春の虹
断層の裾に溢れて芹の水
川見ゆるまでを歩きて梅日和
一塊の夕べの動く鬼やらひ
笹子鳴くころ素直になればなほ
春星や家族それぞれ離れ住み
春愁と言ふをはばかる齡かな
春愁の歩の滞る遠汽笛
ワクチンを打つの打たぬの春炬燵
水温むところ子の声鳥の声
寒星の揃ひて願ひ事ひとつ
姉は子の家へ移りぬ小豆粥
缶コーヒー半端に甘し春眠し

川上昌子
別府優
染谷晴子
松原ふみ子
濱地恵理子
旭幹子
佐藤郭子
広渡詩乃
室井千鶴子
秋元きみ子
梶浦道成
田中敦子
根上節子
青木恭子
菊池京子